安田常雄年譜

1946年（昭和 21 年）
3 月　東京都大森区に生れる
1970年（昭和 45 年）
3 月　東京大学経済学部経済学科卒業
4 月　東京大学大学院経済学研究科修士課程入学
1972年（昭和 47 年）
3 月　東京大学大学院経済学研究科修士課程修了
4 月　東京大学大学院経済学研究科博士課程入学
1977年（昭和 52 年）
3 月　東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
1978年（昭和 53 年）
9 月　米国フルブライト委員会の ASIR（Asian Scholars In Residence）プログラムで，米国西ワシントン大学東アジア研究科にて講義・研究（Visiting Scholar）
1979 年 8 月，帰国
1980年（昭和 55 年）
4 月　鹿児島大学法文学部経済学科助教授（経済史担当）に採用される
1982年（昭和 57 年）
1 月　東京大学より経済学博士の学位を授与される
1986年（昭和 61 年）
10 月　電気通信大学電気通信学部教授（社会思想史担当）に転任される
1998年（平成 10 年）
4 月　電気通信大学評議員に併任される（2000 年 3 月まで）
2003年（平成 15 年）
4 月　国立歴史民俗博物館教授歴史研究部に転任される
2004年（平成 16 年）
4 月　人間文化研究機構国立歴史民俗博物館教授研究部に配置換
総合研究大学院大学担当教授に任命される
2005年（平成 17 年）
4 月　総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長に任命される（2007 年 3 月まで）
2007年（平成 19 年）
4 月　人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究連携センター長に併任される
7 月　人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究推進センター長に配置換
2009年（平成 21 年）
4 月　人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長に併任される（現在に至る）

安田常雄主要業績目録

Ⅰ　著書・編著・監修

1　『日本ファシズムと民衆運動』（単著），れんが書房新社，1979年11月，pp.1-607
2　『出会いの思想史＝渋谷定輔論』（単著），勁草書房，1981年9月，pp.1-467
3　『暮らしの社会思想―その光と影―』（単著），勁草書房，1987年4月，pp.1-330
4　『戦後体験の発掘―15人が語る占領下の青春―』（天野正子と共編），三省堂，1991年7月，pp.1-339
5　『戦後「啓蒙」思想の遺したもの―復刻版『思想の科学』『芽』別巻―』（天野正子と共編），久山社，1992年6月，pp.1-246
6　『復刻版「思想の科学」「芽」』全5巻（天野正子と共編），久山社，1992年6月
7　『裾野市史・近現代資料編Ⅰ』（責任編集），静岡県裾野市史編さん室，1993年3月
「解説・はじめに」（pp.861-864），「暮らしの風景」（pp.869-877）などを執筆。
8　『無党派層を考える―その政治意識と行動―』（高畠通敏と共著，国民文化会議「転換期の焦点」4），世織書房，1997年1月
9　『近代日本社会運動史人物大事典』全5巻（共編），日外アソシエーツ，1997年1月
10　『裾野市史・近現代資料編Ⅱ』（責任編集），静岡県裾野市史編さん室，1999年1月，pp.1-1049，「解説・はじめに」「暮らしの風景―1914～1945―」「村と戦争」「暮らしの風景―1945～1971―」を執筆
11　『思想の科学総索引　1946～1996』（責任編集），思想の科学研究会・索引の会編，思想の科学社，1999年10月，p.1-743
12　『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000年3月，pp.1-1144，「岡本利吉と農村青年共働学校」「暮らしの風景―村と戦争―」などを執筆。
13　『日本史研究最前線（別冊歴史読本）』（吉村武彦と共編），新人物往来社，2000年6月，pp.1-182
14　『思想史の発想と方法』（展望日本歴史24）（佐藤能丸と共編），東京堂出版，2000年9月，pp.1-464。「解説・思想史の発想と方法」「コメントⅢ（1）」「コメントⅢ（2）」「コメントⅣ」を執筆。
15　『裾野市史・通史編Ⅱ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2001年3月，pp.1-978「暮らしの風景（第4編第1章第1節）」「暮らしの風景（第4編第2章第1節）」「暮らしの風景（第4編第3章第1節）」「村と戦争（第4編第3章第6節）」「暮らしの風景（第4編第5章第1節）」を執筆。
16　『歴史教科書大論争（別冊歴史読本）』（吉村武彦と共編），新人物往来社，2001年10月，pp.1-182
17　『こちら葛飾区亀有公園前派出所　両さんの日本史大達人③―江戸時代後期～現代―』（秋本治キャラクター原作，安田常雄監修），集英社，2002年6月，pp.1-221
18　『近現代日本社会の歴史　近代社会を生きる』（大門正克，天野正子と共編）吉川弘文館，2003年12月，pp.1-309
19　『近現代日本社会の歴史　戦後経験を生きる』（大門正克，天野正子と共編）吉川弘文館，2003年12月，pp.1-324
20　同時代史学会編『戦争と平和の同時代史』日本経済評論社，2003年12月，pp.1-214，
21　安田常雄編『歴史研究の最前線』vol.3（新しい近現代史研究へ），総研大・日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館，2004年9月30日，pp.48-85
22　鶴見俊輔・『思想の科学』五十年の会編（共編）『源流から未来へ―『思想の科学』五十年』（報告と討論），思想の科学社，2005年8月，pp.1-332
23　安田常雄・近現代監修『日本の歴史人物』ポプラ社，2006年3月，pp.1-288
24　『千葉県史・資料編（社会・教育・文化）』，千葉県資料研究財団，2007年3月
25　埼玉大学共生社会研究センター監修，仲井富，中村紀一，羽田博昭，藤林泰，丸山尚，宮崎省吾，安田常雄共編『横浜新貨物線反対運動資料』全9巻，別冊1，すいれん社，総頁数4048頁，2008年2月

26 『千葉県史・通史編（近現代 3)』，千葉県資料研究財団，2009 年 2 月，pp.1-1013「さまざまな地域新聞の発行」（第 1 編第 4 章第 3 節 2)，「青年団と公民館の文化運動」（第 1 編第 4 章第 3 節 3)，「ナトコ映画による啓発運動」（第 1 編第 4 章第 3 節 4)，「多様な地域の文化運動」（第 1 編第 4 章第 3 節 5)，「青年団と公民館の活動」（第 2 編第 3 章第 2 節 5)，「大衆文化と娯楽」（第 2 編第 3 章第 4 節)，「テレビ文化と娯楽の多様化」（第 3 編第 3 章第 4 節 2)，「観光の振興と展開」（第 3 編第 3 章第 4 節 3)，「ミニコミにみる市民運動」（第 4 編第 2 章第 1 節 2)，「環境と自然を守る市民運動」（第 4 編第 2 章第 1 節 3）を執筆。

27 安田常雄監修『日本の歴史 4―幕末～昭和時代（前期)』ポプラ社，2009 年 3 月，pp.1-207

28 安田常雄，趙景達編『近代日本のなかの「韓国併合」』東京堂出版，2010 年 3 月，pp.1-266

29 国立歴史民俗博物館 + 安田常雄編『歴博フォーラム 戦争と平和』東京堂出版，2010 年 3 月，pp.1-230

30 国立歴史民俗博物館 + 安田常雄編『歴博フォーラム 戦後日本の大衆文化』東京堂出版，2010 年 9 月，pp.1-256

Ⅱ　学術論文

1 「『血盟団』事件の発想と論理」『季刊社会思想』第 2 巻第 3 号，社会思想社，1972 年 11 月，pp.163-197

2 「反ファシズムの射程について」鹿児島大学法文学部経済学科『経済学論集』第 21 号，1983 年 3 月

3 「戦中期民衆史の一断面―ある生活記録の紹介を通して―」『年報・近代日本研究』No.5，山川出版社，1983 年 10 月，pp.329-352

4 「農民自治と農村自治」『歴史公論』1985 年 1 月号，雄山閣，pp.107-113

5 「構造・人間・生活―近代日本史像再構築への視角―」『歴史公論』1985 年 9 月号，雄山閣，pp.37-40

6 「民衆思想の展開」社会思想史学会『社会思想史研究』No.9，1985 年 10 月，pp.75-85

7 「民間学の読み解きのかなたに―鹿野政直『近代日本の民間学』を読んで―」『思想の科学研究会会報』第 114 号，思想の科学研究会，1985 年 12 月，のち『思想の科学』1987 年 11 月臨時増刊号，pp.27-38，思想の科学社に再録

8 「民間学の意味するもの―鹿野政直『近代日本の民間学』を読んで」（改訂版)，鹿児島大学法文学部経済学科『経済学論集』第 26 号，pp.9-30，1986 年 3 月

9 「衣・食・住・暮らしの対照―1946 年／1986 年」『思想の科学』1986 年 5 月号，pp.2-15，思想の科学社

10 「民衆史としての民衆娯楽―権田保之助を中心として―」拙著『暮らしの社会思想』勁草書房，1987 年 4 月，所収，pp.56-92

11 「農本主義と天皇」，菅孝行編『叢論日本天皇制』Ⅲ（天皇制に関する理論と思想)，柘植書房，1988 年 6 月号，pp.139-161

12 「いま立っている場所―鶴見俊輔・80 年代―」『理想』（特集・現代日本の哲学者)，No.646，1990 年春夏号（1990 年 7 月)，pp.43-51

13 「象徴天皇制と民衆意識―その思想的連関を中心に―」『歴史学研究』No.621，1991 年 7 月号，1991 年 7 月 15 日，pp.31-41

14 「漂流する共同性のなかで―戦後共同体論の再検討―」『思想の科学』1991 年 8 月号，pp.40-47，思想の科学社

15 「地域のなかの戦争―裾野の昭和史―」『裾野市史研究』第 4 号，静岡県裾野市史編さん室，1992 年 3 月，pp.1-21

16 「『民主主義科学』と『思想の科学』―戦後思想の発想と方法―」，安田常雄・天野正子編『戦後「啓蒙」思想の残したもの』久山社，1992 年 6 月，所収，pp.45-78

17 「象徴天皇制と国民意識」，中村政則編『近代日本の軌跡 6，占領と戦後改革』吉川弘文館，1994 年 2 月，pp.126-147

18 「マルクス主義と知識人」『岩波講座・日本通史』（近代3）岩波書店，1994年7月，pp.205-237
19 再録「地域のなかの戦争―裾野の昭和史―」『日本史学年次別論文集・近現代3』（1992年版），学術文献刊行会，pp.228-238，1994年11月
20 「愛郷会・愛郷塾と国家主義運動」『水戸市史』下巻（二），水戸市，1995年8月pp.589-632，
21 「アメリカニゼーションの光と影」『戦後日本・占領と戦後改革』第3巻（戦後思想と社会意識），岩波書店，1995年9月25日，pp.251-285，
22 「象徴天皇制の50年」，歴史学研究会編『戦後50年をどう見るか』青木書店，1995年11月，pp.209-236
23 「『天皇観の相剋』の天皇像」『思想の科学』（特集・武田清子研究），1995年12月号，pp.36-46
24 「〈越境〉する社会運動のまなざし―『近代日本社会運動史人物大事典』によせて―」『年報日本現代史』第3号，1997年8月，pp.285-297
25 「ミクロ・デモクラシーの世界へ―思考様式としての丸山眞男―」『歴史学研究』No.701，1997年9月，pp.1-12
26 「戦後裾野の暮らしと生活意識」『裾野市史研究』第10号，静岡県裾野市史編さん室，1998年3月，pp.1-32
27 「解説論文・変容の軌跡と意味―第一次～第五次『思想の科学』1946年5月～72年3月」，思想の科学研究会・索引の会編『思想の科学総索引　1946～1996』思想の科学社，1999年10月，p.5-13
28 「岡本利吉と農村青年共働学校」『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000年3月25日，所収，pp.865-876
29 「暮らしの風景―村と戦争―」『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000年3月25日，所収，pp.899-935
30 「方法についての断章―序にかえて―」，歴史学研究会編『戦後歴史学再考―「国民史」を超えて―』青木書店，2000年6月，所収，pp.3-27
31 「象徴天皇制をどうみるか」，吉村武彦，安田常雄編『日本史研究最前線』（別冊歴史読本），新人物往来社，2000年6月，所収，pp.181-182
32 「思想史と現場のあいだ―戦後日本思想史研究の方法を通して―」，社会思想史学会編『社会思想史研究』No.24，2000年9月，北樹出版，pp.5～10
33 「解説・思想史の発想と方法」安田常雄・佐藤能丸編『思想史の発想と方法』（展望日本歴史24），東京堂出版，2000年9月30日，所収，pp.2-12
34 「コメントⅢ（1）」，安田常雄・佐藤能丸編『思想史の発想と方法』（展望日本歴史24），東京堂出版，2000年9月30日，所収，pp.234-235
35 「コメントⅢ（2）」，安田常雄・佐藤能丸編『思想史の発想と方法』（展望日本歴史24），東京堂出版，2000年9月30日，所収，pp.270-271
36 「コメントⅣ」，安田常雄・佐藤能丸編『思想史の発想と方法』（展望日本歴史24），東京堂出版，2000年9月30日，所収，pp.408-409
37 「〈国民史〉の発想と方法―『国民の歴史』の読み方について―」『歴史学研究』No.741，2000年10月，青木書店，pp.35～41，56
38 「〈国民史〉と「浮遊」する歴史意識」，教育科学研究会編『教育』No.659，2000年12月号，pp.32-39
39 「憲法第九条の歴史といま―素人の読みかた―」，歴史教育者協議会編『歴史地理教育』No.617，2000年12月号，pp.8-14
40 「戦後の子どもの暮らしと感受性―『駿東文苑』から―」『裾野市史・通史編Ⅱ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2001年3月，所収，pp.358-390
41 再録「おわりに―展望にかえて―」（『日本ファシズムと民衆運動』），大門正克，小野沢あかね編『展望日本歴史21，民衆世界への問いかけ』東京堂出版，2001年10月5日，収録，pp.94-103
42 「現代史における自治と公共性に関する覚え書―横浜新貨物線反対運動の〈経験〉を通して―」，中央大学法学部『法学新報』第109巻第1・2号，2002年4月，pp.353-376

43 「財閥批判と財閥の転向」，石井寛治，原朗，武田晴人編『日本経済史 3　両大戦間期』東京大学出版会，2002 年 12 月，pp.201-208
44 「大衆文化のなかのアメリカ像―『ブロンディ』から TV 映画への覚書―」，アメリカ学会編『アメリカ研究』第 37 号，2003 年 3 月，pp.1-21
45 「歴史学と『われわれ』」，牧原憲夫編『〈私〉にとっての国民国家論―歴史研究者の井戸端談義』日本経済評論社，2003 年 6 月 1 日，pp.271-289
46 「教養からサブカルチャーへ」，大門正克，安田常雄，天野正子編『近現代日本社会の歴史　戦後経験を生きる』吉川弘文館，2003 年 12 月 1 日，pp.178-206
47 「さまざまな人生」，大門正克，安田常雄，天野正子編『近現代日本社会の歴史　戦後経験を生きる』吉川弘文館，2003 年 12 月，pp.233-263
48 「歴史的思考のはじまる場所」，大門正克，安田常雄，天野正子編『近現代日本社会の歴史　戦後経験を生きる』吉川弘文館，2003 年 12 月 1 日，pp.296-304
49 「大衆文化のなかの逆コース」，同時代史学会編『戦争と平和の同時代史』日本経済評論社，2003 年 12 月，pp.149-157
50 「民衆史研究の現在―『帝国』との接点で」，安田常雄編『歴史研究の最前線』Vol.3，総研大・日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館，2004 年 9 月，pp.48-85
51 「戦争とメディア・序論―思想史的視角から」，東京歴史科学研究会『人民の歴史学』第 161 号，2004 年 10 月，pp.1-12
52 「『新しい歴史教科書』再考」，歴史学研究会編『歴史教科書をめぐる日韓対話―日韓歴史研究シンポジウム』大月書店，2004 年 11 月，pp.53-65
53 「異種混交の世界はいかに可能か」，同時代史学会編『占領とデモクラシーの同時代史』日本経済評論社，2004 年 12 月，pp.181-190
54 「現代史研究と戦争展示」，国立歴史民俗博物館編『歴史展示のメッセージ』アム・プロモーション，2004 年 12 月，pp.69-90
55 「『思想の科学』と戦後精神のゆくえ」『出版ニュース』2005 年 8 月中旬号，出版ニュース社，pp.6-9
56 「はじめに―日本史講座 10」，歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本史』第 10 巻（戦後日本論），東京大学出版会，2005 年 7 月，pp. v-xii
57 「〈占領〉の精神史―「親米」と「反米」のあいだ」，歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本史』第 10 巻（戦後日本論），東京大学出版会，2005 年 7 月，pp.127-157
58 「『明六雑誌』と『思想の科学』」，鶴見俊輔・『思想の科学』五十年の会編『源流から未来へ―『思想の科学』五十年』，思想の科学社，2005 年 8 月，pp.93-112
59 「民衆にとってのアメリカニゼーション」『世界』2005 年 10 月号，岩波書店，pp.288-296
60 「大熊信行『国家悪』（1957 年）」，岩崎稔・上野千鶴子・成田龍一編『戦後思想の名著 50』平凡社，2006 年 2 月，pp.151-161
61 「象徴天皇制における『伝統』の問題」『歴史評論』No.673，2006 年 5 月号，pp.17-33
62 「戦時期の反戦平和運動」，監修・鶴見俊輔，「平和人物大事典」刊行会編『平和人物大事典』，日本図書センター，2006 年 6 月，pp.640-642
63 「思想の科学研究会」，福田アジオ編『結社の世界史 1　結衆・結社の日本史』山川出版社，2006 年 7 月，pp.292-302
64 「幾度目かの曲り角に立って」，思想の科学研究会編『「思想の科学」50 年の回想―地域と経験をつなぐ』出版ニュース社，2006 年 8 月，pp.6-22
65 「戦時期メディアに描かれた『男性像』」，阿部恒久，大日方純夫，天野正子編『男性史 2　モダニズムから総力戦へ』日本経済評論社，2006 年 12 月，pp.203-229
66 「戦後啓蒙の方法的射程」，社会思想史学会編『社会思想史研究』No.30，藤原書店，2006 年 9 月，pp.7-16
67 討論「戦後日本における『啓蒙』研究の発想と論理」（安田常雄・長尾伸一・木前利秋），社会思想

史学会編『社会思想史研究』No.30，藤原書店，2006年9月，pp.29-51
68 「マッカーサーへの手紙」『人間文化』Vol.5（特集・人間文化研究機構・第5回公開講演会・シンポジウム），大学共同利用機関法人・人間文化研究機構，2007年1月，pp.37-48
69 「『現代展示』と歴史的思考」，国立歴史民俗博物館『歴博』No.146，2008年1月，pp.28-29
70 「横浜新貨物線反対運動の遺したもの」，（宮崎省吾らと共編）埼玉大学共生社会研究センター監修『横浜新貨物線反対運動資料』（別冊・解題・総目次）すいれん社，2008年2月，pp.25-33
71 「『研究博物館』と現代展示」，総合研究大学院大学『総研大ジャーナル』（特集・博物館と研究），No.14，2008年9月，pp.18-21
72 「戦後大衆文化のポリティックス―映像作品を中心に―」，静岡県近代史研究会『静岡県近代史研究』No.33，2008年10月，pp.1-19
73 「歴史としての20世紀―ひとつの断片として―」，人間文化研究機構編『論壇 人間文化』vol.3，2008年11月，pp.58-75
74 「現代史と同時代史のあいだ―方法的イメージの試み―」，同時代史学会『同時代史研究』創刊号，同時代史学会，2008年12月，pp.3-13
75 『思想の科学』五十年史の会編『「思想の科学」ダイジェスト 1946～1996』思想の科学社，2009年1月，共同編集と50項目執筆
76 「展示「戦争と平和」の基本的視点」『歴博』No.155，国立歴史民俗博物館，2009年7月，pp.28-29
77 「大衆文化と民衆史研究―戦後日本の映像を通して―」，東海大学史学会『東海史学』第43号，2009年3月，pp.1-21
78 「大衆文化研究入門―経験のなかの原風景―」『歴史評論』No.710，2009年6月号，pp.62-69
79 「社会・文化の視座と民衆運動史研究―戦後日本の実験を通して―」『歴史学研究』No.859（2009年度歴史学研究会全体会報告），2009年10月増刊号，2009年10月，pp.12-22
80 「『大衆文化』の基本的視点」『歴博』No.159，国立歴史民俗博物館，2010年3月，pp.24-25
81 「『現代展示』のおける『人の移動』という視点」『歴博』No.162，国立歴史民俗博物館，2010年9月，pp.2-5
82 「一点の資料からの構想力を―歴博『現代展示』の試み―」『評論』No.181，日本経済評論社，2010年10月，pp.8-11

Ⅲ　批評・エッセイ・研究動向など

1 「民衆のファシズム」『思想の科学』1981年5月号，思想の科学社，pp.72-73
2 「私的な文献案内―ファシズム体験と戦争体験―」，『思想の科学』1982年2月臨時増刊号，思想の科学社，pp.112-115
3 「戦前期の民衆運動から」（シンポジウム「『国益』論と思想の立脚点」報告），『思想の科学』1982年2月臨時増刊号，思想の科学社，pp.91-95
4 「戦争が“豊かさ”と結びつく時代の怖さ」，『エミターメ』1982年7月創刊号，pp.62-63
5 「大森詮夫の思い出を語る」，大森民子編『万事　頼んだぞ―弁護士大森詮夫の生涯と思い出―』同時代社，1983年11月，pp.23
6 「戦時下，農民の生活と意識」（シンポジウム「農とファシズム」報告），『思想の科学』1984年2月臨時増刊号，思想の科学社，pp.2-4
7 シンポジウム「農とファシズム―30年代と80年代―」（安田常雄，箕輪伊織，大島清，安達生恒），『思想の科学』1984年2月臨時増刊号，思想の科学社，pp.10-19
8 討論「農民と映像化―映画『ニッポン国・古屋敷村』をめぐって―」（小川伸介ほか小川プロダクション，渋谷定輔，安田常雄，大野明男・輿石正），『思想の科学』1984年2月臨時増刊号，思想の科学社，pp.22-47
9 「1920年代をみる眼」『思想の科学研究会会報』第110号，思想の科学研究会，1984年6月
10 「人物記，詩人・渋谷定輔」『日本農業新聞』1985年4月9日～5月2日付

11 「危機をみる視線―追悼・大島清―」『人生は旅　人は旅人―大島清追悼文集―』校倉書房，1985 年 5 月号，pp.265-267
12 「インタビュー構成・渋谷定輔「農民と市民の接点」，『思想の科学』1986 年 3 月臨時増刊号，思想の科学社，pp.73-87
13 「友愛についての断片」『思想の科学』1986 年 3 月臨時増刊号，思想の科学社，pp.146-149
14 「『思想の科学』の戦後 40 年」『東京新聞』1986 年 5 月 14 日付
15 「民衆の日常生活を掘り下げる―『思想の科学』の戦後 40 年―」『毎日新聞』（西部本社版），1986 年 5 月 14 日付
16 「近代日本思想史」『史学雑誌』（1985 年の歴史学界・回顧と展望），史学会，1986 年 6 月，pp.170-175
17 「歴史の焦点／近代農民史―生活の意味の深化へ―」『高校通信・東書―日本史・世界史―』No.131，東京書籍，pp.6-7，1987 年 3 月
18 再録「近代日本思想史」，史学会編『日本歴史学会の回顧と展望』（11，日本近現代Ⅱ），山川出版社，pp.538-543
19 「座談会・民間学のむこうに」（上野博正，佐々木元，渋谷定輔，安田常雄），『思想の科学』1987 年 11 月臨時増刊号，思想の科学社，pp.2-8
20 「民間学―編集後記」『思想の科学』1987 年 11 月臨時増刊号，思想の科学社，p.132
21 「故渋谷定輔氏のこと」『埼玉新聞』1989 年 1 月 27 日付
22 「自治思想のゆくえ―追悼・渋谷定輔」『思想の科学』1989 年 4 月号，思想の科学社，pp.104-105
23 「土田杏村の何を読み，杏村のどこに注目するか」『土田杏村とその時代』復刊第 1 号（第 17 号），1989 年 4 月号，p.63
24 「暮らしの歴史を学ぶ意味―『暮しの手帖』を手がかりに―」『教科通信』27-1，教育出版，1990 年 1 月，pp.9-10
25 「スペースとしての自分」，日本歴史学会『日本歴史』1990 年 1 月号，pp.73-74
26 「この遺稿について―追悼・後藤宏行―」『思想の科学研究会会報』第 125 号，思想の科学研究会，1990 年 1 月，p.14
27 「この会の生まれるまで―思想の科学研究会・札幌シンポジウム―」『思想の科学』1990 年 6 月号，思想の科学社，pp.45-47
28 「記憶という自由―〈占領〉特集にあたって―」『思想の科学』1990 年 7 月号，思想の科学社，pp.4-7
29 「共同インタビューと構成・占領期の思想の記録（安田常雄・天野正子）」以下担当安田，森毅「戦後やけっぱちの発掘」，加藤秀俊「戦後の学風を支えたもの」，梅原猛「ニヒリズムの底から」，小野耕世「異文化としてのアメリカ」（以上，7 月号），江成常夫「『アメリカ』を生きる」，古関彰一「憲法制定過程へのこだわり」，大江志乃夫「沖縄からみた天皇と占領」，北沢恒彦「セブンティーンの武装」，中沢新一「緑の天皇の侍従長」（以上，8 月号），『思想の科学』1990 年 7 月号，8 月号
30 「戦後史文献解題・戦後日本 1957-1990」（天野正子と分担執筆），佐々木毅・鶴見俊輔・富永健一・中村政則・正村公宏・村上陽一郎編『戦後史大事典』三省堂，1991 年 3 月 1 日，pp.1012-1028
31 「記録構成・子どもたちの見た戦争―裾野・学童疎開の記録」『裾野市史研究』No.3，静岡県裾野市史編さん室，1991 年 3 月，pp.88-104
32 「戦後零年の断章」『電気通信大学通報』No.322，1991 年 5 月，pp.22-23
33 「方法としての折原脩三―天皇・無意識・アジアの精神」『評論』No.78，日本経済評論社，1991 年 6 月，pp.6-9
34 「初発の接点から」『鶴見俊輔集』第 2 巻月報，筑摩書房，1991 年 10 月，pp.10-12
35 「農民詩のゆくえ」，星寛治詩集『はてしない気圏の夢をはらみ』解説しおり，世織書房，1992 年 6 月，pp.6-10
36 「序―はじめに」，安田常雄・天野正子編『戦後「啓蒙」思想の遺したもの』久山社，1992 年 6 月，所収，pp.7-10

37 「『思想の科学』・『芽』解題」，安田常雄・天野正子編『戦後「啓蒙」思想の遺したもの』久山社，1992年6月，所収，pp.213-230
38 「先駆社版・『芽』以後の『思想の科学』」，安田常雄・天野正子編『戦後「啓蒙」思想の遺したもの』久山社，1992年6月，所収，pp.231-239
39 インタビュー構成・丸山眞男「同人結成のころのこぼれ話」，安田常雄・天野正子編『戦後「啓蒙」思想の遺したもの』久山社，1992年6月，所収，pp.193-207
40 インタビュー構成・武谷三男「職業としての学問のために」，安田常雄・天野正子編『戦後「啓蒙」思想の遺したもの』久山社，1992年6月，所収，pp.147-160
41 「50周年への助走を」『思想の科学研究会会報』第130号，思想の科学研究会，1992年9月，pp.1-2
42 「解説・はじめに」『裾野市史・近現代資料編Ⅰ』（責任編集），静岡県裾野市史編さん室，1993年3月，所収，pp.861-864
43 「暮らしの風景」『裾野市史・近現代資料編Ⅰ』（責任編集），静岡県裾野市史編さん室，1993年3月，所収，pp.869-877
44 「大政翼賛会と「社会主義」」『教科通信』30-10，教育出版，pp.4-6，1993年5月
45 「〈友情〉こそが世界を変える」生活クラブ生協『DIY』1993年8月号，p.1
46 「鼎談・渡辺一夫をめぐって（安田常雄・上野博正・芝仁太郎）」，芝仁太郎『渡辺一夫小論』思想の科学社，1994年11月，所収，pp.149-155
47 「遠くまで行くんだ」（p.81）「辺境」（p,111）「漫画主義」（p.116）「無名鬼」（pp.118-119），『思想の科学』（特集・現代雑誌名鑑・不完全版），1994年11月号，思想の科学社
48 「土地の記憶・ことばの記憶」『沖縄タイムス』1995年2月5日付
49 「〈暮らしの風景〉という視線」『裾野市史研究』第7号，静岡県裾野市史編さん室，pp.136-137，1995年3月
50 「天皇を論じた人々」『朝日新聞』1995年5月28・29日付，のち朝日新聞社編『にっぽんの民主主義』（戦後50年，5），朝日文庫，1995年に収録，pp.46-51
51 「戦後思想・文化」『史学雑誌』（1994年の歴史学界・回顧と展望），史学会，pp.189-193，1995年6月
52 「展示批評　見える都市・見えない都市」『歴博』No.72，国立歴史民俗博物館，p.27，1995年8月
53 「報告・東北の生活文化を考える」『思想の科学研究会地方集会　みやぎ・なかにいだ集会の記録』明神泊出版，pp.77-83，1995年7月
54 「はがき通信」『日本歴史』No.569，吉川弘文館，p.144，1995年10月
55 「全体会趣旨説明・近代日本における“マイノリティ”，―世界史における20世紀Ⅱ」『歴史学研究』No.697，1997年5月，pp.36-37
56 「戦後国民意識の変遷と「従軍慰安婦」問題」，教育出版労働組合教科書問題対策部・学習会記録パンフレット，1997年10月，pp.1-30
57 「読書アンケート・1997年に私のおもしろかった三冊」『活字以前』No.1，1998年1月
58 「全体会趣旨説明・20世紀における〈アメリカ〉体験―世界史における20世紀―」『歴史学研究』No.710，1997年5月号，pp.36-37
59 「『黄金バット』」の在野学―加太こうじ氏を悼んで―」『歴史学研究』No.718，1998年12月号，pp.30-32
60 「本で読む現代史―『妻たちの思秋期』（斎藤茂男著）を読む―」『月刊アルタ』No.257，1999年1月号，pp.30-31
61 「解説・はじめに」，『裾野市史・近現代資料編Ⅱ』（責任編集），裾野市史編さん室，1999年1月，所収，pp.7-9
62 「解説・大正・昭和戦前期の裾野（1914～1945）暮らしの風景」，『裾野市史・近現代資料編Ⅱ』（責任編集），裾野市史編さん室，1999年1月，所収，pp.956～971
63 「解説・大正・昭和戦前期の裾野（1914～1945）村と戦争」，『裾野市史・近現代資料編Ⅱ』（責任編集），

裾野市史編さん室，1999 年 1 月，所収，pp.999～1002
64 「解説・占領から高度経済成長期の裾野（1945～1971）暮らしの風景」,『裾野市史・近現代資料編Ⅱ』（責任編集），裾野市史編さん室，1999 年 1 月，所収，pp.1002～1007
65 「読書アンケート・1998 年に私のおもしろかった本」『活字以前』No.4,「活字以前」発行所，1999 年 1 月
66 「21 世紀にむけた歴史学の方法を考えよう」『歴史学研究会月報』No.472，1999 年 4 月，pp.1-2
67 「全体会趣旨説明・方法としての戦後歴史学―世界史における 20 世紀Ⅳ―」『歴史学研究』No.723，1999 年 5 月，pp.21-22
68 「GHQ の教育文化政策」『日本の作曲　20 世紀』（音楽芸術別冊），音楽之友社，1999 年 7 月，pp.32-33
69 「『聞き書きの会』のこと」『思想の科学会報』No.47，思想の科学研究会，1999 年 10 月，p.6
70 「はしがき」，思想の科学研究会・索引の会編『思想の科学総索引　1946～1996』思想の科学社，1999 年 10 月，p.1
71 「『思想の科学』誌 50 年，歩みたどる総索引刊行（インタビュー）」,『朝日新聞』（夕刊），2000 年 1 月 6 日付
72 「“自分さがしの時代”と歴史学」『週刊読書人』2000 年 3 月 17 日号
73 「戦中・戦後の暮らし」『裾野市史研究』第 12 号，裾野市史編さん室，2000 年 3 月，pp.164-165
74 「暮らしの風景（第 4 編第 1 章第 1 節）」『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000 年 3 月 25 日，所収，pp.729-732
75 「暮らしの風景（第 4 編第 2 章第 1 節）」『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000 年 3 月 25 日，所収，pp.781-786
76 「暮らしの風景（第 4 編第 3 章第 1 節）」,『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000 年 3 月 25 日，所収，pp.835-842
77 「村と戦争（第 4 編第 3 章第 6 節）」『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000 年 3 月 25 日，所収，pp.893-898
78 「暮らしの風景（第 4 編第 5 章第 1 節）」『裾野市史・通史編Ⅰ』（共同編集），静岡県裾野市史編さん室，2000 年 3 月 25 日，所収，pp.995-999
79 座談会「歴史の研究と文学の世界」（網野善彦，辻原登，安田常雄，吉村武彦），『日本史研究最前線』（別冊歴史読本），新人物往来社，2000 年 6 月 19 日，所収，pp.15-32
80 「聞き書きは自分をくり返し確かめる旅［近代・現代］」『AERA　Mook　日本史がわかる。』朝日新聞社，2000 年 12 月 10 日，所収，pp.55-57
81 「日本史―用語の解説」『現代用語の基礎知識　2001』自由国民社，2001 年 1 月 1 日，pp.1139-1141
82 「ヤポネシアと民間学」『歴史書通信』No.135，2001 年 5 月，歴史書懇話会発行，p.2-4
83 「はしがき」，安田常雄・吉村武彦編『歴史教科書大論争』新人物往来社，2001 年 9 月 25 日，所収，pp.10-11
84 「時代別総論近現代・失敗から学ぶということ」，安田常雄・吉村武彦編『歴史教科書大論争』新人物往来社，2001 年 9 月 25 日，pp.32-36
85 「めざされる国家に献身する民衆像」，安田常雄・吉村武彦編『歴史教科書大論争』新人物往来社，2001 年 10 月 25 日，所収，pp.78-80
86 「2001 年度歴史学研究会大会報告批判・全体会」『歴史学研究』No.757，2001 年 12 月号，pp.38-40
87 「リーベンクイズ／日本鬼子―日中 15 年戦争・元皇軍兵士の告白」（資料監修・安田常雄，山田朗），株式会社ダケレオ出版／イメージフォーラム，2001 年 12 月 1 日，pp.18-23
88 「日本史―用語の解説」『現代用語の基礎知識　2002』自由国民社，2002 年 1 月 1 日，pp.1184-1186
89 「解説」，小田部雄次著『雅子妃とミカドの世界』小学館文庫，2002 年 1 月 1 日，所収，pp.229-234
90 「能川報告へのコメント」『日本史研究』No.475，2002 年 3 月号，pp.173-180
91 「大衆文化のなかの『逆コース』」『評論』No.132，日本経済評論社，2002 年 8 月，pp.1-6

92 「日本史―用語の解説」『現代用語の基礎知識　2003』自由国民社，2003年1月1日，pp.1104-1106
93 「拉致家族とはどういう問題か」，歴史教育者協議会編『歴史地理教育』No.650，2003 年2月号，pp.56-57
94 「戦後の天皇制」，『日本史A　現代からの歴史　指導資料』東京書籍，p.199，2003年4月
95 「同時代史の方法とアクチュアリティ」，社会思想史学会編『社会思想史研究』No.27，藤原書店，2003年9月，pp.207-212
96 「日本史―用語の解説，『現代用語の基礎知識　2004』自由国民社，2004年1月1日，pp.1071-1073
97 「変貌する世界との応答はいかに可能か―新しい『日本史講座』の〈実験〉に寄せて」『UP』2004年6月号，東京大学出版会，pp.20-24
98 「一枚のビラからの構想力」『歴博』No.128，2005年1月20日，pp.19-23
99 「インタヴュー“55 Years of Change”」，“THE DAILY YOMIURI”，January 1, 2005
100 「象徴天皇制における「伝統」の問題」『歴史評論』No.667，2005年11月号，pp.81-84
101 「山際報告への雑感」『思想の科学会報』第163号，2006年12月5日，pp.14-15
102 「基幹共同研究『20世紀における総合的研究』」『歴博』No.142，2007年5月，pp.24-25
103 「『現代展示』と歴史的思考」『歴博』No.146，2008年1月，pp.28-29
104 「思想の感情と情景―ある私的な交渉史から―」『森崎和江コレクション―精神史の旅』月報2，藤原書店，2008年12月，pp.3-5
105 「長崎崎戸行・断章」『同時代史学会 NEWS LETTER』第13号，2008年11月，pp.1-2
106 「社会・文化の視座と民衆運動史研究―戦後日本の実験を通じて―」『2009年度歴史学研究会大会プログラム』，2009年5月23・24日，pp.3-4
107 「六〇年代論の再構築―2009年度年次大会に向けて―」『同時代史学会 NEWS LETTER』第14号，2009年11月，pp.1-2
108 「忘却と記憶のせめぎ合い―シンポ「しまくとぅばとアイデンティティ」に寄せて―」『沖縄タイムス』2010年9月16日付
109 「はじめに」，記念シンポジウムを記録する会編『読む人 書く人 編集する人―「思想の科学」50年と，それから』思想の科学社，2010年9月，pp.3-4
110 「公開シンポジウム『思想の科学』は，まだ続く」（参加者 道場親信，黒川創，加藤典洋，上野千鶴子，橋爪大三郎，司会・安田常雄，福田賢治），記念シンポジウムを記録する会編『読む人 書く人 編集する人―「思想の科学」50年と，それから』思想の科学社，2010年9月，pp.9-80
111 「一つの実物資料から『現代史』への構想力を―歴博『現代展示』のねらいについて―」『中学社会通信 Socio express』2010年秋号，教育出版，2010年10月
112 「第6展示室 歴博フォーラムのまとめ」『歴博』No.163，2010年11月，pp.24-25
113 「ベトナム戦後と研究の原点―『日本ファシズムと民衆運動』のころ―」『歴博』No.163，2010年11月，pp.26-27

Ⅳ　事典

1 「寄生地主」，「女工哀史」，「小作制度」など10項目，見田宗介，栗原彬，田中義久編『社会学事典』弘文堂，1988年2月
2 「渋谷定輔」1項目，『現代日本朝日人物事典』朝日新聞社，1990年11月
3 「混血児」，「エリザベス・サンダース・ホーム」，「反米主義」など9項目，佐々木毅，鶴見俊輔，富永健一，中村政則，正村公宏，村上陽一郎編『戦後史大事典』三省堂，1991年2月
4 「戦後補償」（1項目追加），佐々木毅，鶴見俊輔，富永健一，中村政則，正村公宏，村上陽一郎編『戦後史大事典』（増補縮刷版），三省堂，1995年5月
5 「大塚金之助」，「権田保之助」，「鈴木茂利美」など約300項目，近代日本社会運動史人物大事典編集委員会編『近代日本社会運動史人物大事典』全5巻，日外アソシエーツ，1997年1月
6 「サークル村」，「住民運動」，「水俣病研究」など69項目，鹿野政直，鶴見俊輔，中山茂編『民間学

事典』全2巻（事項編・人物編），三省堂，1997年6月

7 「鶴見俊輔ほか編『日本の百年』全10巻」（1項目），見田宗介・上野千鶴子・内田隆三・佐藤健二・吉見俊哉，大澤真幸編『社会学文献事典』弘文堂，1998年2月，p.421

8 「愛郷塾」，「あの人は帰ってこなかった」，「阿部定事件」，「アングラ文化」，「石川三四郎」，「井上日召」，「うたごえ運動」，「エスペラント運動」，「エロ・グロ・ナンセンス」，「大熊信行」，「小倉清三郎」，「学生運動」，「カストリ雑誌」，「北一輝」，「熊沢天皇事件」，以上15項目。近現代共同編集委員『日本歴史大事典』Ⅰ，小学館，2000年7月10日

9 「国家社会主義」，「サークル文化運動」，「士官学校事件」，「思想の科学」，「集団就職」，「昭和維新」，「昭和史論争」，「昭和天皇自粛問題」，「新左翼」，「真相」，「杉山茂丸」，「ストリップ・ショー」，「生活記録運動」，「全学連」，「戦後派」，「戦後民主主義」，「船頭小唄」，「戦没農民兵士の手紙」，「大正教養主義」，「大正文化」，「大日本生産党」，「高尾平兵衛」，「橘孝三郎」，「敵性語・敵性音楽」，「転向」，以上25項目，近現代共同編集委員『日本歴史大事典』Ⅱ，小学館，2000年10月20日。

10 「東京音頭」，「永山事件」，「二・二六事件」，「日本改造法案大綱」，「農本主義」，「農民哀史」，「のらくろ」，「花森安治」，「羽生三七」，「平山周」，「複合汚染」，「三島由紀夫事件」，「水野成夫」，「民間学」，「民主主義」，「無条件降伏問題」，「やくざ映画」，「横浜新貨物線反対運動」，「横浜浮浪者襲撃事件」，「ラジオ体操」，「力道山」，「労音」，以上22項目，近現代共同編集委員『日本歴史大事典』Ⅲ，小学館，2001年3月10日

11 「池田種生」，「井出好男」，「伊東三郎」，「大塚金之助」，「奥谷松治」，「風見章」，「唐沢憲一」，「木内四郎」，「木内宗蔵」，「小岩井浄」，「小林袈裟松」，「小山啓吾」，「小山四三」，「桜井覚」，「佐藤光政」，「渋谷定輔」，「渋谷黎子」，「鈴木茂利美」，「瀬川知一良」，「瀬川久雄」，「関和男」，「瀬下貞夫」，「高橋修一」，「滝沢村之助」，「竹内国衛」，「竹内新」，「竹内精司」，「田中惣五郎」，「塚田隆雄」，「内藤国雄」，「中田美穂」，「中村登」，「野口伝兵衛」，「羽毛田正直」，「林広吉」，「柳沢恰」，「若林忠一」，以上37項目，日本アナキズム運動人名事典編集委員会編『日本アナキズム運動人名事典』ぱる出版，2004年4月20日

Ⅴ　書評

1 上木敏郎『土田杏村と自由大学運動』（誠文堂新光社），『史学雑誌』第92編第2号，1983年2月，pp.103-104

2 中西博之『米を追う』（勁草書房），『第三文明』1984年9月号，pp.164-165

3 河原宏『日本に活力は蘇るか』（勁草書房），『第三文明』1985年7月号，pp.166-167

4 鶴見俊輔編『現代風俗通信―´77～´86―』（学陽書房），『週刊ポスト』1987年10月30日号，p.118

5 正村公宏『図説戦後史』（筑摩書房），『週刊ポスト』1988年6月10日号，pp.112-113

6 東敏雄『勤労農民経営と国家主義運動』（御茶の水書房），『史学雑誌』第97編第8号，1988年8月号，pp.97-98

7 東敏雄『勤労農民経営と国家主義運動』（御茶の水書房），『社会経済史学』第54編第4号，1988年12月，pp.108-110

8 西川長夫『日本の戦後小説―廃墟の光―』（岩波書店），『週刊ポスト』1989年1月27日号，pp.136-137

9 坂本多加雄『山路愛山』（吉川弘文館），『日本歴史』第494号，1989年7月，pp.103-104

10 ポール・セロー，ラッセル・ベーカー『男について』（文藝春秋社），『週刊ポスト』1990年4月13日号，p.124

11 長原豊『天皇制国家と農民―合意形成の組織論―』（日本経済評論社），『歴史学研究』No.610，1990年9月号，pp.35-38

12 東敏雄編『村の指導者とインテリたち』（御茶の水書房），『エコノミスト』1990年9月25日号，pp.94-95

13 吉本隆明・中上健次・三上治『解体される場所』（集英社），『週刊ポスト』1990年10月19日号，p.118

14　再録・長原豊『天皇制国家と農民―合意形成の組織論―』（日本経済評論社），『転蓬廿年―書評にみる日本経済評論社の本』日本経済評論社，1991年12月
15　リチャード・ニクソン『ニクソン・わが生涯の戦い』（文藝春秋社），『週刊ポスト』1992年2月7日号，pp.114-115
16　三上一夫『日本農村社会近代化の軌跡』（御茶の水書房），『社会経済史学』第58編第3号，1992年9月，pp.102-105
17「生活者の実像の方法化のために―書評，西田美昭・久保安夫編『西山光一日記』東大出版会」，東大社会科学研究所『社会科学研究』第44巻第3号，1992年12月pp.209-216
18　中村隆英『昭和史Ⅰ』（東洋経済新報社），『週刊ポスト』1993年4月23日号，p.138
19　中村隆英『昭和史Ⅱ』（東洋経済新報社），『SAPIO』1993年8月26日，9月9日号
20　鈴木正『時代に反する思想』（北樹出版），『歴史学研究』No.706，1998年1月，pp.60-61
21　歴史学研究会編『日本史史料［5］現代』（岩波書店），『歴史学研究』No.720，1999年2月号，p.59
22　F・アトリー『日本の粘土の足―迫りくる戦争と破局への道―』（日本経済評論社），『歴史学研究』No.726，1999年8月，p.60
23　鹿野政直『化生する歴史学―自明性の解体のなかで―』（校倉書房），『歴史評論』No.597，2000年1月号，pp.93-98
24　神立春樹『明治期の庶民生活の諸相』（御茶の水書房），『土地制度史学』第170号2001年1月，pp.62-64
25　アンドルー・ゴードン編『歴史としての戦後日本』（上）（下），みすず書房，『エコノミスト』2002年2月19日号，p.59
26　酒井隆史『自由論―現在性の系譜学―』（青土社），『社会思想史研究』No.26，2002年9月，pp.105-108
27「方法の言葉は，いかに暮らしに拮抗できるか―杉原達『中国人強制連行』を読んで―」，『日本学報』（大阪大学大学院文学研究科日本学研究室），第22号，2003年3月，pp.107-113
28　大門正克編『昭和史論争を問う』（日本経済評論社），『歴史学研究』No.838，2008年3月号，pp.59-61，p.64
29　大門正克『歴史への問い／現在への問い』（校倉書房），『週刊読書人』2008年6月6日号
30　安丸良夫『文明化の経験』（岩波書店），『社会思想史研究』No.32，2008年9月30日，藤原書店，pp.209-214